

令和4年
(2022年) 冬号

●発行●

滋賀県大津・南部農業農村
振興事務所農産普及課
草津市草津三丁目14-75
TEL 077-567-5421~5423
FAX 077-562-8144
メールアドレス
ga35@pref.shiga.lg.jp
Facebook
https://www.facebook.
com/facetoagri.o.n/
発行責任者 住谷 一樹

この印刷物は古紙パルプを配合しています

大津・南部の農業

祝 『琵琶湖システム』世界農業遺産認定



滋賀県公式
ロゴマーク



琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業が、「森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」として令和4年7月に国連食糧農業機関(FAO)から世界農業遺産に認定されました。

【琵琶湖システムの一つ「魚のゆりかご水田」】

水田はニゴロブナ等の湖魚が産卵し繁殖する環境に適していることから、琵琶湖辺の水田には湖魚が遡上し、産卵・繁殖します。このように魚が育つ水田を、「魚のゆりかご水田」と呼んでいます。

大津・南部管内の草津市(志那中、志那)・野洲市(須原、安治、野田)の湖岸の水田にも湖魚が遡上してくるから、地元の方を中心に遡上経路の確保や繁殖の確認など、魚のゆりかご水田を守る取組みをしています。FAOによる現地調査の際には、野洲市須原での取組みを調査員の方に紹介しました。



水田に向かって遡上する湖魚
(草津市志那中、R3)

環境にやさしい栽培技術と省力化技術の定着を目指して みどりの食料システム戦略

食料・農林水産業の生産力向上と持続性との両立をイノベーションで実現するため、令和3年5月、国において「みどりの食料システム戦略」が策定され、その推進に向けた事業が令和4年度から実施されています。

大津・南部管内では、「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」により、以下の2つの取組が行われていますので紹介します。

○琵琶湖もりやまフルーツランドグリーン転換協議会

守山市のナシ園において、天敵製剤とロボット草刈機による化学合成農薬の削減と省力化を実証しています。

天敵製剤は、ナシの主要害虫であるハダニ類を捕食するミヤコカブリダニをほ場に放飼するもので、県内ナシ栽培では初めての使用事例です。

ロボット草刈機は、家庭用ロボット掃除機のように指定エリア内を自動走行して除草作業を行います。同機は太陽光パネルにより充電できるため、本県のナシ園のような電源を有しないほ場での活躍が期待されます。

天敵製剤の効果的な使用には、天敵に配慮した薬剤選択や天敵にやさしい草生管理が必要です。ロボット草刈機の有効な使用方法等を見極め、省力的で環境にやさしい栽培を実現できるよう取組を進めています。



ナシ園に設置した天敵製剤



ナシ園を除草するロボット草刈機

○愛郷米(あいきょうまい)生産組合協議会

野洲市の愛郷米生産組合協議会では、有機農業を目指し、有機質肥料の利用と乗用型機械除草機による除草作業を組合せた栽培体系を実証しています。

有機農業は、収量や品質が不安定なことや労働負荷の高さが課題となりますが、有機質肥料の施用量や除草機の使用時期を検討し、安定生産・省力栽培を実現できるよう取組を進めています。

県では、これらの環境にやさしい栽培技術と省力化技術が地域で定着・普及するよう、事業の取組を支援していきます。



乗用型除草機による水田雑草の除草

新品種「びわほなみ」への円滑な転換へ ～大幅な収量向上と品質の高位安定化を目指して～

今回は小麦新品種「びわほなみ」への品種転換の取り組みについて紹介します。

○取り組み内容

これまで栗東市では小麦「農林61号」が毎年約70ha作付けされてきましたが、気象の影響や倒伏などによる収量・品質の低下が問題となっていました。

そこで、令和4年産より多収で、製めん適性に優れ、耐倒伏性を持つ、新品種「びわほなみ」に全面転換されました。品種転換に際し、本品種

は赤かび病に弱いことや子実タンパク含有率が低くなりやすいことが懸念されたことから、関係機関や農業者の協力を得ながら、赤かび病の適切な防除と生育後半に重点を置いた施肥の導入による収量・品質向上を目指しました。

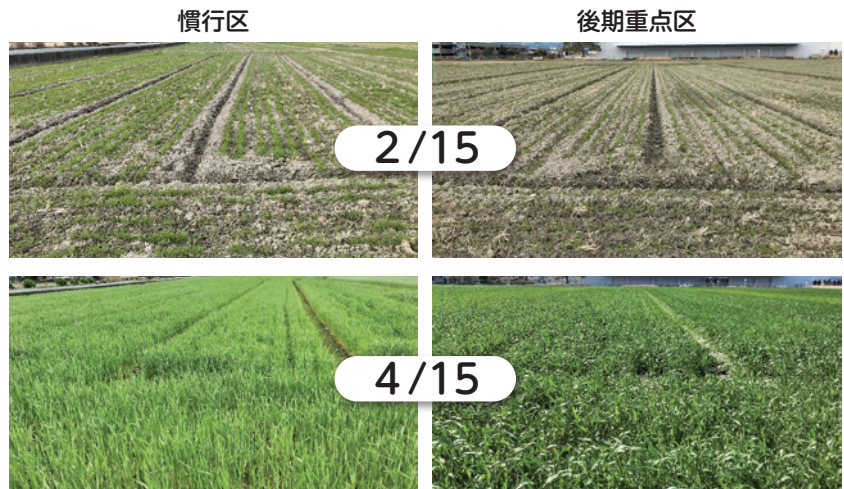


写真1 慣行区と後期重点区の生育状況

○取り組み結果

後期重点施肥栽培(以下、後期重点)では全量基肥一発+実肥栽培(以下、慣行)と比べ、初期生育が抑制されましたが、施肥後、葉色が濃く推移し、穂数が多くなりました。結果として、収量は後期重点で706kg/10a(坪刈り収量)となり、慣行の553kg/10aより多くなりました。なお、栗東市全体の実収は451kg/10aでした。

また、当課で異なる施肥体系の試験区を設定し、検証したところ、10区中7区で「麦の品質評価基準」における子実タンパク含有率の基準値を満たすことが明らかになりました。

このほか、本品種で倒伏の発生はなく、赤かび病については6年ぶりに本県の病害虫防除所より注意報が発令されましたが、適期防除と3回目の追加防除により発病を水準以下に抑えられました。



写真2 「びわほなみ」の赤かび病発生の様子

○今後の動き

今後は栗東市に加えて令和5年産から、大津市の一部地域でも「びわほなみ」の作付けが開始されることから、今回の結果を踏まえ、本格導入に向けて収量・品質向上の取組を進めていきます。

イチゴの滋賀県オリジナル品種「みおしずく」



～この冬から量販店での試験販売を実施～



◆ 新品種の愛称「みおしずく」

滋賀県では、平成28年から農業技術振興センターにおいてイチゴのオリジナル品種育成に取り組み、5年の歳月をかけて育成しました。

この品種の愛称は「みおしずく」です。イチゴの形と食べた時のみずみずしさを表現し、水のイメージを通じて琵琶湖・滋賀を連想させることから「みおしずく」に決められました。

◆ 「みおしずく」の特徴

- ・ 果実は明るい橙赤色で、「章姫」と比べて果実は硬めです。
- ・ 味は、酸味があり、糖酸比^{*}は良食味といわれる16～17です。
- ・ みずみずしく味が濃いことが特徴で、春でも味の低下が少ないです。
- ・ 収穫開始時期は「章姫」と比べて早く、11月下旬頃から収穫が始まります。

※「糖酸比」… 糖度と酸度のバランスを示す指標のこと。

◆ 今後の取組

「みおしずく」は、この冬の県内量販店の試験販売に向けて実証栽培されており、当課は環境データ収集などで支援しています。「みおしずく」を店頭で見つけたときは、是非召し上がって、食べた時のみずみずしさ、バランスのとれた甘みと酸味をお楽しみください。

当課は、令和5年度の「みおしずく」本格生産に向けた支援に加えて、量販店に「章姫」などを出荷する生産者グループの「びわこいちご」ブランドの確立に向けた支援も行っています。これらの取組を通して、今後も滋賀県産イチゴの認知度向上・消費拡大に取り組んでいきます。



写真 「みおしずく」の果実(左)と栽培の様子(右)